

ダニエルの書 - 九番

最初の天使たちのメッセージ

Jeff Pippenger

2023-12-04

ダニエル書1章は、黙示録14章の第一の天使のメッセージを表している。エホヤキムは、象徴的に、それが「終わりの時」への到来ではなく、第一の天使のメッセージに力が与えられることであることを示している。すべての預言者は調査審判の「終わりの日」を指し示している。この章は、十四万四千人の試練の過程が始まった2001年9月11日を表している。マラキ書3章では、その過程は、契約の使者がその宮に突然来るために道を備える使者が現れるときの、きよめの過程として表されている。道を備える使者は、荒野で叫ぶ「声」でもあり、また試みでもあって、それはきよめの過程の一部である。マラキ書3章では、十四万四千人はレビの子らとして表されている。レビの子らは、獣の像を表していた金の子牛の反逆の折に、使者モーセの側に立った者たちを表している。

獣の像の試練を乗り越えることは、清めの過程を成す三つの試練のうち第二の試練に関するもう一つの聖書的な例証である。レビの子らは、印を受ける前にその試練を乗り越えなければならない。

エゼキエル書8章と9章に描かれている印を押すことは、2001年9月11日に始まった清めの過程のもう一つの例証である。第8章では、最終的に太陽を拝むエルサレムの者たちは、ラオデキア的アドベンチズムの四世代を表している。第9章では、印を受ける者たちは、エルサレムの中で行われている忌むべきことのために嘆き叫んでいる。エルサレムは神の教会である。

三人の天使のメッセージは、清めの過程の一つの例証でもある。これら三つのメッセージは三段階の試験過程を表しており、レビの子らは第二の試験に関わるためにも、まず第一の試験に合格することが求められる。第三の試験は別種の試験である。というのも、それはレビの子らが最初の二つの試験にうまく合格したかどうかを識別する試験を表しているからである。これは預言的な試金石である。第一の試験は（霊的な意味で）食事に関する試験であり、契約の使者のために道を備える使者であるエリヤを通して聖霊によって与えられたメッセージを、レビの子らが受け入れるかどうかに基づいて、合格か不合格かが決まる。

黙示録の一章一節は、そのメッセージの重大さを強調している。それは、ヨハネとして描かれている人間の使者が諸教会に送るメッセージが、父から受けたキリストからガブリエルへ、さらにガブリエルから彼へと伝えられたものであることを、意図的に示している。エリヤのメッセージは神の権威を帯びており、ヨハネのメッセージ、エリヤのメッセージ、あるいは「荒野で叫ぶ声」を退けることは、イエス・キリストの啓示を退けることにほかならない。

第二の試練は視覚的なものである。というのも、レビの子らが、栄光によって地を照らすために降りて来た御使いの手にあったエリヤのメッセージを一度食べたなら、彼らは時

のしるしを正しく見分けることを可能にする聖書的な方法論を受け入れたことになるからである。その方法論は、レビの子らに、これらの時のしるしが、アメリカ合衆国において教会と国家が結びつきつつあることを、獣の像の試練の成就として示しているのだと認識させる。さらに重要なのは、それらの時のしるしを聖なる改革の路線の文脈に置くと、それがアルファとオメガ、すなわち初めが終わりを示すということの核心だということである。その聖なる改革の路線は、神の民が、神の印を受ける備えの業に協力するために、自らの力の限りを尽くさなければならないことを明らかにしている。

それゆえ、わたしの愛する者たちよ、あなたがたがいつも従ってきたように、わたしがいるときばかりでなく、今はわたしがいないときにはなおさら、恐れおののきつつ自分の救いを達成しなさい。あなたがたのうちに働き、御心のままに願わせ、また行わせてくださるのは神なのです。何事でも、不平を言ったり言い争ったりせずに行いなさい。そうすれば、曲がってよこしまな民のただ中であって、非難されるところのない、傷のない神の子らとなり、彼らの間で、この世にあって光として輝く者となります。ピリピ人への手紙 2:12-15。

ダニエル、ハナニヤ、ミシャエル、アザリヤの四人は、2001年9月11日を、黙示録18章の天使が下って来たことを示すしるしと認識し、その手にある隠れたマナを取って食べることを選ぶ、世界中のセブンスデー・アドベンチストの人々を表している。食べるべき隠れたマナは、使徒パウロが先に引用したように、神（すなわち隠れたマナ）を表しており、神はご自分の民の内に働いて、その御心と喜ばれることを行わせる。パウロはフィラデルフィアの人々への使者を表しており、そのメッセージを退けることは死を意味した。ダニエル、ハナニヤ、ミシャエル、アザリヤは、隠れたマナを食べることを選ぶ者たちを表している。

さて、彼らの中には、ユダの子孫の者であるダニエル、ハナニヤ、ミシャエル、アザリヤがいた。宦官の長は彼らに名を与え、ダニエルにはベルテシャツアル、ハナニヤにはシャデラク、ミシャエルにはメシャク、アザリヤにはアベデ・ネゴという名を与えた。しかしダニエルは、王の食物や王の飲む酒によって自分を汚すまいと心に定め、自分を汚さないようにしてほしいと宦官の長に願い出た。ダニエル書 1:6-8

ダニエルは、2001年9月11日に天から下ってきたメッセージを食べようと決意し、また、バビロンの食物と飲み物として表されるメッセージを拒むことも決意した。アシュペナズは、ユダの捕囚のうちから誰を王の前に連れて行くべきか選んでいた。

そして王は、宦官長アシュペナズに、イスラエルの子らのうち、王族や貴族の家柄の若者を何人か連れて来るよう命じた。すなわち、身体に欠点がなく、容姿端麗で、あらゆる知恵に通じ、知識にたけ、学問を理解し、王宮に仕える能力のある若者で、彼らにカルデア人の学問と言語を学ばせるためであった。ダニエル書 1:4、5。

もし黙示録1章1節に示されている命令系統に従うなら、ネブカドネザルは、イザヤがヒゼキヤに告げた預言を成就する子どもたちを選ぶようアシュペナズに指示した。アシュペナズはその命令を受け、宦官の長であるメルザルにそれを伝えた。ネブカドネザルは天の父なる神を、アシュペナズはキリストを、メルザルはガブリエルを表している。アシュペナズはどの子どもたちを選ぶべきかを知っており、王の前にダニエルを連れて行く前か

ら、彼が食事に関して正しい決断を下すことも分かっていた。

さて、神はダニエルが宦官の長から好意と深い慈しみを受けるようにしてくださった。そこで宦官の長はダニエルに言った。「私は、あなたがたの食物と飲み物をお定めになった私の主君である王を恐れている。もしあなたがたの顔色が、あなたがたと同じ若者たちよりも悪く見えるようなことがあれば、私は王の前で首が危うくなるのだ。」
ダニエル書 1:9、10

ここでメルザルは、三天使のメッセージの第一段階を指し示している。第一段階は、メルザルがネブカドネザルを恐れたことに示されているように、神を恐れることである。ヘブライ文字の第一・第十三・最後の文字を組み合わせて作られているヘブライ語の「真理」という語は、これらの記事において、三天使の三段階の試験の過程を表していることが以前に示された。このようにして、複数の証言に基づき、第一の天使のメッセージには、三天使のメッセージが表す三つの試験すべてが含まれていることが立証された。第一の天使のメッセージは永遠の福音と特定され、それはアダムの時代からキリストの再臨に至るまで同じ福音であると定義されている。

また、私はもう一人の御使いが天の中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者たち、あらゆる国民、部族、言語、民に宣べ伝えるための永遠の福音を携えていた。彼は大声で言った。「神を恐れ、彼に栄光を帰せよ。彼の裁きの時が来たからである。天と地と海と水の泉を造られた方を礼拝せよ。」ヨハネの黙示録 14:6、7。

第一の天使のメッセージの第一の段階は神を恐れることである。第二の段階は彼に栄光を帰することであり、第三は彼の審判の時が到来することである。他の二つの天使のメッセージとの関係では、第一の天使のメッセージは「神を恐れよ」である。次に、第二の天使のメッセージはバビロンの陥落を告げ、第一の天使のメッセージに関わるミラー派の運動においても、第三の天使の運動においても、「バビロンから出よ」との呼びかけの中で聖霊の注ぎが顕現する。その時期は、真夜中の叫び、大いなる叫び、あるいは後の雨として表現されるが、そのメッセージを宣べ伝える者たちは神に栄光を帰する。第二の天使のメッセージの時は神に栄光が帰される時であり、その時期は、ミラー派の歴史において調査審判が始まった時点、あるいは日曜法の危機において行われるバビロンの大淫婦の審判という時点へと至る。

メルザルの恐れは第一天使のメッセージを表し、そこから十日間の食事に関する試練が始まる。十という数もまた試練を象徴している。王を恐れると述べたメルザルの言葉は、ダニエルが王よりも神を恐れ、バビロンの食物で身を汚すまいと心に定めたことと同様であった。ダニエルと三人の勇士に対する試みの期間は三年であり、これによって三天使のメッセージの三つの段階が表されている。

王は、彼らに日ごとの分として王の食物と王が飲むぶどう酒を与えることを定めた。こうして三年間彼らを養い、その終わりに王の前に立たせるためであった。ダニエル書 1:5

ダニエル書1章は第一の天使のメッセージが力を与えられることを表し、そこで食事に関する試練の始まりが示される。これはミラー派の歴史では小さな巻物を食べることによって表された。ダニエルと三人の忠実な者たちに対する試みの期間は、その三年間の最初の

十日間に行われた。十という数は試練の過程の象徴であり、古代イスラエルがヨシュアとカレブのメッセージによって示された第十の試みを退けたことに見られる。また、それはスミルナの教会の迫害の時にも表されている。

あなたがこれから受ける苦難を、何一つ恐れてはならない。見よ、あなたがたのうちの幾人かは試されるために、悪魔によって牢に投げ込まれるであろう。あなたがたは十日の間、苦難に遭うであろう。死に至るまで忠実でありなさい。そうすれば、いのちの冠をあなたに与えよう。ヨハネの黙示録 2:10。

スミルナの教会への勧めは、試練の過程を恐れないことだった。彼らが神を畏れるなら、神はその敬虔な畏れにいのちの冠をもって報いてくださるからである。その敬虔な畏れは、ダニエルが天のマナを食いたいと願ったことによって表されている。

そのときダニエルは、宦官長がダニエル、ハナニヤ、ミシャエル、アザリヤの監督に立てたメルザルに言った。「どうか十日のあいだ、あなたのしもべたちを試してください。私たちには豆類を食べさせ、水を飲ませてください。それから、あなたの前で私たちの顔色と、王の食物の割り当てを食べている若者たちの顔色を見てください。あなたがご覧のとおり、あなたのしもべたちを扱ってください。」そこで彼はこのことに同意し、彼らを十日間試した。ダニエル書 1:10-14。

第一の試みは神を恐れることだった。メルザルの例と、ダニエルがバビロンの食物と飲み物で自分を汚さないと心に定めたことがそれを物語っている。第一の天使のメッセージの第二の要素は神に栄光を帰することであり、それは食事の効果が目に見える形で現れることを示している。十日の終わりに、ダニエルと三人の勇士は、自らの容貌によって神に栄光を帰した。

十日が過ぎると、彼らの顔色は、王の食物の割り当てを食べていたすべての若者たちよりも良く、肉付きもよかった。そこでメルザルは、彼らの食物の割り当てと、飲むはずのぶどう酒を取り上げ、代わりに豆類を与えた。この四人の若者については、神は彼らにあらゆる学問と知恵に関する知識と才能を与え、またダニエルにはすべての幻と夢を悟る力を与えた。ダニエル書 1:15-17。

四人の若者は食物に関する最初の試練を乗り越えた。そこはアダムとエバがつまずいた点であり、また、キリストが洗礼直後に直面した最初の試練を表していた。キリストの洗礼は、彼の預言の系譜における第一のメッセージに力を与える出来事であった。それは「荒野で叫ぶ声」が告げたメッセージに力を与え、これを公認した。その後、ダニエルと三人の若者の場合と同様に、キリストも四十日のあいだ食物に関する試練を受け、ダニエルは十日のあいだ試された。ダニエルとキリストは、2001年9月11日に下った天使の手にある隠されたマナの試みを予型していた。キリストにもダニエルにも、その後さらに二つの試練が続いた。第二の試練では、ダニエルと三人の若者はその容貌によって神の栄光を現した。キリストにおいても、食物の試練に続く試練は栄光を表すものだった。

すると悪魔は彼に言った。「もしあなたが神の子なら、この石に命じてパンにならせよ。」イエスは答えて言われた。「『人はパンだけで生きるのではなく、神のすべての言葉によって生きる』と書いてある。」悪魔は彼を高い山に連れて行き、一瞬のうちにこの世のすべての国々を彼に見せた。悪魔は彼に言った。「これらすべての権威とそ

の栄光をあなたに与えよう。それは私に委ねられており、私は望む者にそれを与えるのだ。だから、もし私を拜むなら、すべてをあなたのものにしよう。」イエスは答えて言われた。「退け、サタン。『あなたの神である主を拜し、ただ主にのみ仕えよ』と書いてある。」マタイによる福音書 4:3-8

キリストが食物の試練を乗り越えた後、サタンは世界のすべての王国の「栄光」を与えると申し出たが、キリストは代わりに王の王に栄光を帰することを選んだ。アダムとエバは最初の試練に失敗し、すぐに自分たちの顔をいちじくの葉で隠そうとした。以前身にまとっていた光の衣に象徴される神の栄光を、もはや現していなかったからである。ダニエルと三人の勇士が食物の試練を乗り越えたとき、彼らには「あらゆる学問と知恵において知識と技能が与えられ、ダニエルにはすべての幻と夢を悟る力が与えられた」。

彼らは第二の試験に合格したが、それはメルザルによって実施されていた視覚的な試験であった。ミラー派の歴史において、第二の天使のメッセージは、ウィリアム・ミラーによって代表される荒野で叫ぶ「声」のメッセージを受け入れた者と、それを拒んだ者との区別を画した。預言的には、そのときミラー派運動はプロテスタンティズムの目に見える唯一の真の角となり、メッセージと運動を拒んだ者たちはローマの娘たちとなった。彼らは小さな書物ではなく、バビロンの食物を食べ、そのぶどう酒を飲むことを選んだ。三年の終わりに、ダニエルとその仲間たちはネブカドネザルによって審査を受けるために召し出された。

こうして、王が彼らを連れて来させると定めていた日数の終わりに、宦官の長は彼らをネブカドネザルの前に連れて行った。王は彼らと語り合ったが、そのすべての者の中に、ダニエル、ハナニヤ、ミシャエル、アザリヤのような者は一人も見いだされなかった。ゆえに彼らは王の前に立った。王が彼らに尋ねた知恵と理解に関するすべての事柄において、彼は、王国中のすべての呪術師や占星術師よりも彼らが十倍も優れていることを見いだした。ダニエルはキュロス王の第一年までいた。ダニエル書 1:18-21。

ダニエルと三人の勇士は「十」日間の試験に合格し、その後、最終試験に合格したとき、彼らは他のすべての者たちよりも「十」倍賢いと認められた。

ダニエル書第1章は、ダニエル書と黙示録から成る書全体における第一の天使のメッセージへの最初の言及である。それは、黙示録14章の第一の天使と同じ特徴を備えている。これは黙示録1章1節で最初に言及された真理を支持している。なぜなら、ネブカドネザルがアシュペナズにメッセージを与え、アシュペナズがメルザルにそのメッセージを伝え、メルザルがダニエルとやり取りしたからである。父なる神がキリストにメッセージを与え、キリストがガブリエルにそのメッセージを伝え、そしてガブリエルがヨハネとやり取りした。

今まさに封印が解かれつつあるこのメッセージは、父なる神がご自分の教会に語りかける際の伝達過程を明らかにしている。父がご自分の教会にまず明らかにしようと選ばれたのは、三人の天使による三段階の試練の過程である。神の預言の御言葉は、その過程を、いくつもの預言の筋道とミラー派の歴史によって、きわめて綿密に詳述している。これらの真理は、2001年9月11日に天使が降りて来たとき、その手の中にあった隠れたマナの不

可欠な要素である。

もし最初の試験に合格していなければ、第二の試験に参加することは不可能であり、したがって合格することもできない。この真理は、キリストとミラー派の歴史において明確に示された。ホワイト姉妹が述べるように、ダニエル書第二章は第二の試験であり、それによって「私たちの永遠の運命が決定される」。彼女はさらに、それが「私たちが封印される前に合格しなければならない」試験であるとも述べている。その試験は今、ほとんど終わろうとしている。

ダニエル書2章は、獣の像の試験について述べている。その章が大いなる像を扱っているのはまさにふさわしく、ダニエルが食事の試験に合格し、「理解」と「知恵」において「十倍」の祝福を受けていたからこそ、彼はその試験を見抜くことができたのだ。エレン・ホワイトの著作におけるその試験への警告と同様に、ダニエル書2章の像の試験は、生死を分ける帰結を伴う試験である。

このゆえに、王は激しく怒り、ひどく憤って、バビロンのすべての賢者を滅ぼすように命じた。そして賢者たちを殺すようにとの命令が出され、彼らはダニエルとその仲間たちを殺すために捜し求めた。ダニエル書 2:12、13。

ダニエル書第1章には、私たちが取り上げるべき預言的な論点がほかにもいくつかあります。これらの論点については、次回の記事で引き続き扱います。

私は、厳重に守られ、堅く立っている一団の人々を見た。彼らは、会衆の確立された信仰を動揺させようとする者を一切容認しなかった。神は彼らを嘉してご覧になった。私は三つの段階-第一、第二、第三の天使のメッセージを示された。私に同行していた天使が言った。「これらのメッセージの一つの石材を動かしたり一本のくぎを揺り動かしたりする者には災いあれ。これらのメッセージの真の理解は極めて重要である。魂の運命は、それらがどのように受け入れられるかにかかっている。」私は再びこれらのメッセージをたどらされ、神の民がその経験をいかに高い代価を払って得たかを見た。それは多くの苦難と激しい闘争を通して得られたものだった。神は一步一步彼らを導き、ついには彼らを堅固で動かされない土台の上に立たせた。私は、人々がその土台に近づいて基礎部分を調べるのを見た。喜びながら直ちにその上に踏み出した者もいた。別の者たちはその基礎に難癖をつけ始めた。改良が施されれば、その土台はさらに完全になり、人々はもっと幸せになるのだと望んだ。中には、調べるためにその土台から降りて、それは誤って据えられていると宣言する者もいた。しかし、ほとんどの者はその土台の上にしっかりと立ち続け、降りてしまった者たちに不平をやめるよう勧めていた。というのも、神こそ大棟梁であり、彼らは神に敵対しているのだから。彼らは、自分たちを堅固な土台へと導いた神の驚くべき御業を語り、心を一つにして天に目を上げ、声を上げて神をあがめた。このことは、不平を言って土台を離れていた者の何人かの心を動かし、彼らはへりくだった面持ちで再びその上に踏み出した。

私は、キリストの初臨の告知へと注意を向け直すよう示された。ヨハネは、イエスの道備えをするために、エリヤの霊と力をもって遣わされた。ヨハネの証しを拒んだ者たちは、イエスの教えから益を受けなかった。その来臨を予告したメッセージに対する彼らの反対は、彼がメシアであることを示す最も強力な証拠を容易に受け入れられ

ない立場に彼ら自身を置いた。サタンは、ヨハネのメッセージを拒んだ者たちをさらに進ませ、キリストをも拒み、十字架につけるに至らせた。こうして彼らは、天の聖所への道を彼らに教えたであろう五旬節の日の祝福を受けられないところに自らを置いてしまった。神殿の垂れ幕が「引き裂かれたこと」は、ユダヤのいけにえと諸儀式がもはや受け入れられないことを示した。大いなるいけにえはささげられ、受け入れられていた。また、五旬節の日に下った聖霊は、弟子たちの心を地上の聖所から天の聖所へと向けさせた。そこへイエスはご自身の血によって入り、ご自分の贖いの効益を弟子たちに注ぐためであった。しかしユダヤ人は全くの暗闇の中に取り残された。彼らは救いの計画について持ち得たはずのすべての光を失い、それでもなお、無益ないけにえや供え物に頼り続けた。天の聖所が地上の聖所にとって代わっていたが、彼らはその変化を何も知らなかった。ゆえに、彼らは聖所におけるキリストのとりなしから益を受けることができなかった。

多くの人々は、キリストを退けて十字架につけたユダヤ人の歩みを戦慄して眺める。そして、主が受けられた恥ずべき虐待の歴史を読むとき、自分たちは主を愛しており、ペテロのように主を否認することも、ユダヤ人のように主を十字架につけることもなかったであろうと思う。しかし、すべての人の心を読み取られる神は、彼らが感じていると公言したイエスへの愛を試みられた。天の全界は、第一の天使のメッセージがどのように受け入れられるかを、最大の関心をもって見守った。ところが、イエスを愛していると公言し、十字架の物語を読むとき涙を流した多くの者が、主の来臨の良い知らせを嘲った。彼らはそのメッセージを喜んで受け入れる代わりに、それは惑わしだと宣言した。彼らは主の現れを愛する者たちを憎み、教会から締め出した。第一のメッセージを退けた者は第二のメッセージによっても益を受けることができず、また、信仰によってイエスとともに天の聖所の至聖所に入る備えをするための「真夜中の叫び」によっても益を受けなかった。さらに先の二つのメッセージを拒んだことによって、彼らの理解は非常に暗くなり、至聖所への道を示す第三の天使のメッセージの中に何の光も見いだせなくなっている。私は見た。ユダヤ人がイエスを十字架につけたように、名ばかりの教会はこれらのメッセージを十字架につけてしまった。そのため、彼らは至聖所に入る道について何の知識もなく、そこでのイエスのとりなしによって益を受けることもできない。無益な犠牲をささげたユダヤ人のように、彼らもイエスが去られた聖所に無益な祈りをささげる。そしてサタンは、この欺きに満足して敬虔を装って、自称クリスチャンであるこれらの者の心を自分のほうへ導き、自らの力としるしと偽りの奇跡をもって働き、彼らを自分の罠にしっかりと絡め取る。

『初期の著作』, 258-261.